

超人気FP!

— ABC ネットニュース —

深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2016年2月4日

今月のトピックス 「マイナス金利導入の影響は？」

日本銀行は、1月29日の金融政策決定会合で「マイナス金利」の導入を決定しました。マイナス金利を簡単に言えば、本来銀行に預金をすれば利息を受け取れるはずが、逆に預金者が利息(手数料)を支払うこととなります。住宅ローンを始めとする借入れは、預金と逆になるため、借入れをすると利息を銀行から受け取れることとなります。ただし実際には、私たち個人や企業が、預金をしたら銀行に利息を取られる、借入れを行ったら利息を受け取れることにはならないでしょう。しかし、マイナス金利の導入により、今後さまざまな形で私たちの生活に影響が出ることが予想されます。そのいくつかを見ていきましょう。

ただでさえ低い預金金利は、さらに低くなることが予想されます。普通預金金利は過去最低の0.001%に並ぶか、もっと低い0.0005%になるかもしれません。実際、マイナス金利の導入は2016年2月16日からであることから、2月1日現在では大多数の銀行は様子見を決め込んでいるようです。長期金利が2月1日には0.05%まで瞬間低下したため、預入期間が長いものを中心に金利が下がると予想されます。最も長い10年物でも0.05%前後まで低下していくでしょう。個人向け国債は、2月募集分から3年、5年、10年の全期間が最低保証金利の0.05%になるはずですが、その他、運用面ではMMF、公社債投信などが新規募集に停止となった運用会社があります。また、学資保険や一時払終身保険などの貯蓄性保険も新規募集停止となる可能性が高いでしょう。

一方、借り入れに関しては住宅ローン金利は引き下げられる(2月1日現在はほとんど1月と変わらず)はずですが、実際にマイナス金利が適用されるのは2月16日から。このため住宅ローン金利の引き下げは、3月融資分からなるでしょう。ただし、先行して2月募集分から引き下げられたフラット35の金利は1月募集と比較して0.06%程度しか低下していません。長期金利は0.2%程度下がっていることを考えれば、既に住宅ローン金利は十分低下しているため、足下から大幅に引き下げる余地はないと推測されます。3月に予想される融資金利の引き下げも過度に期待しないほうがよいでしょう。

住宅ローン金利があまり下がらないと推測される理由は、もう1つあります。マイナス金利の影響で銀行は今後利ざやが減少すると言われていています(だから株価が急落した)。利ざやの減少を埋めるために、ドル箱とも噂される住宅ローン金利を下げたがらない可能性があるのです。利ざや確保という意味では、マイナス金利がさらに引き下げられたり、長期化すればいずれ私たちに利ざや確保の転嫁をしてくることが推測されます。ATMの引出手数料や振込手数料などの値上げ、あるいは高額預金者などへの優遇サービスが低下するかもしれません。いずれにしてもこのコラムを書いている2月1日現在では、マイナス金利導入によって私たちの生活にどう影響が出るのか結論を述べるのは時期尚早のようです。ハッキリした段階でまた述べてみたいと思います。